

資料6 ■「平成25・26年度 全国学力・学習状況調査」における児童質問紙及び生徒質問紙結果（抜粋）

(2) 全国学力・学習状況調査結果から

①国語、算数・数学、総合的な学習の時間

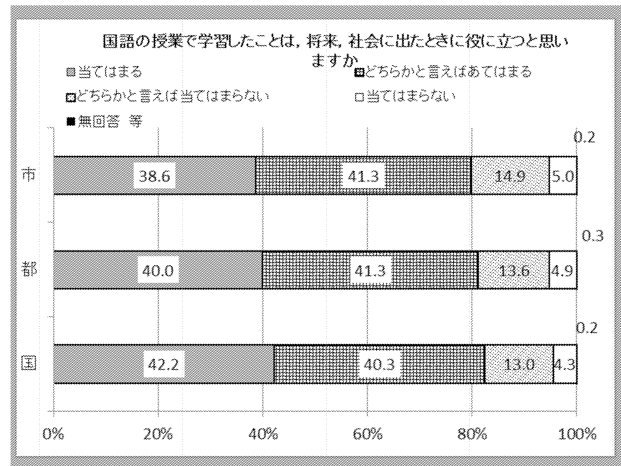
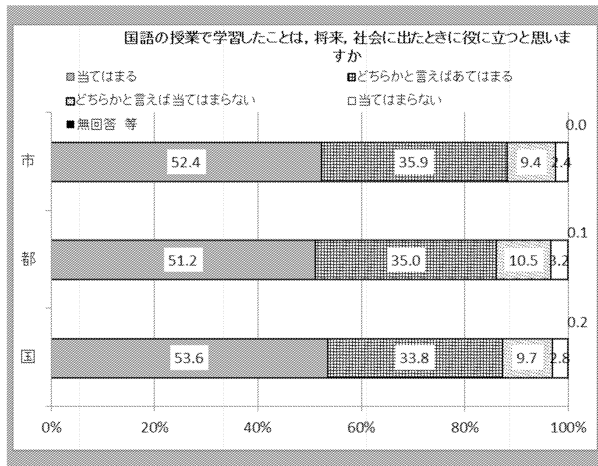
ア 小・中学校の比較

小学校

中学校

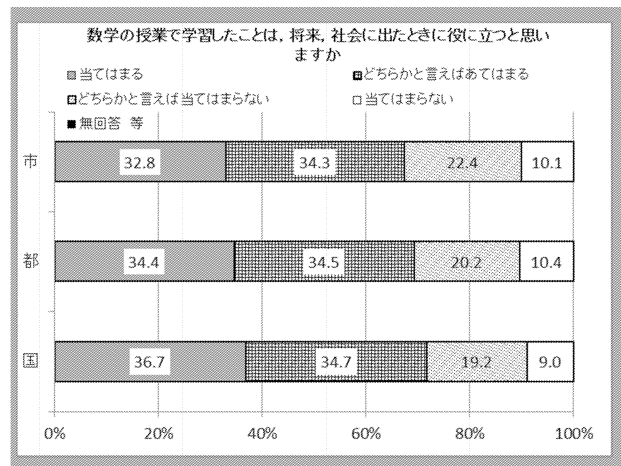
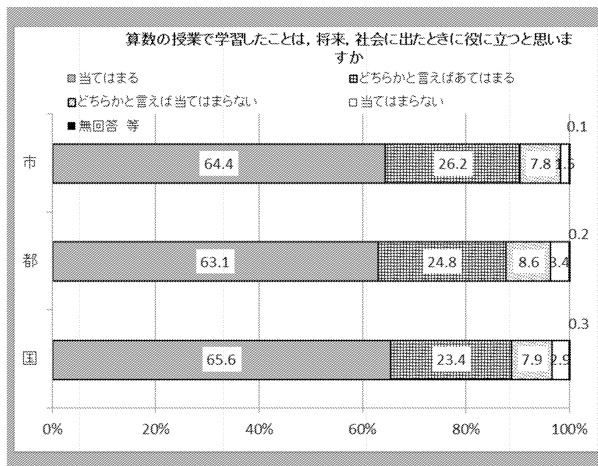
授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つか。

国語

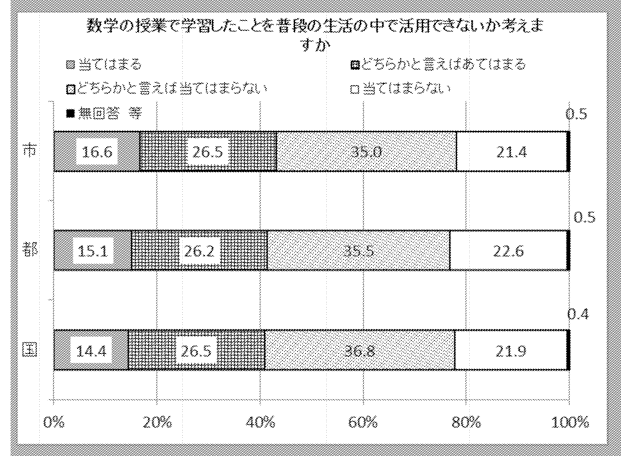
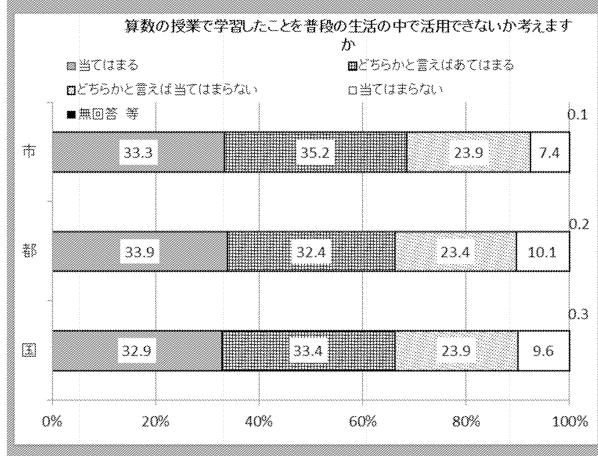


授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つか。

算数・数学

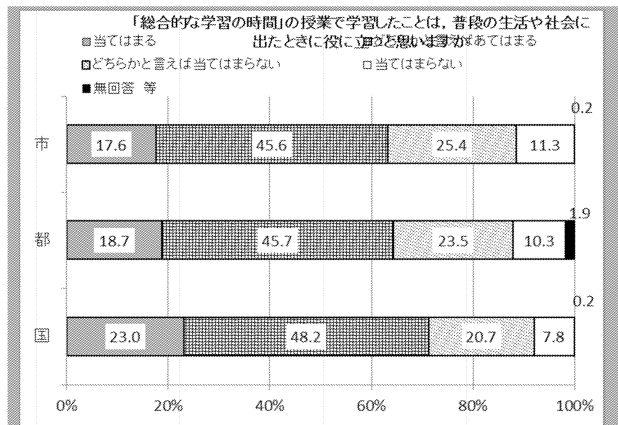
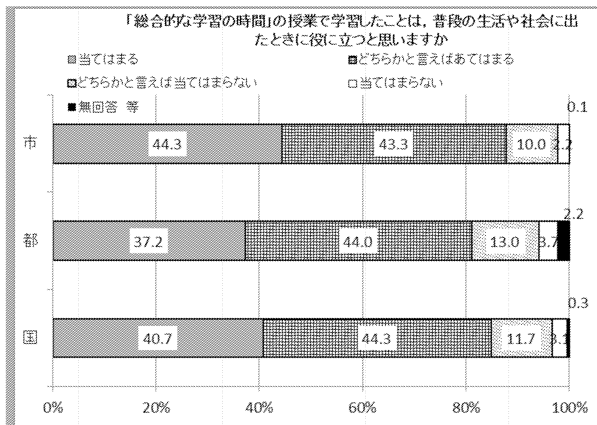


授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか。



授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思うか。

総合的な学習の時間



<分析>

- 小学校と中学校を比べて、「国語」「算数・数学」「総合的な学習の時間」すべてで、中学校の方が、「社会に出てから役に立つ」について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と思う生徒の割合が少なくなる。
- 小学校と中学校を比べて、「総合的な学習の時間」の授業で学んだことの「普段の生活の中での活用」については、中学校の方が普段の生活での活用を考える割合が少なくなる。
- 中学校では、「数学」「総合的な学習の時間」については、「役に立つ、どちらかといえば役に立つ」の割合が、全国及び東京都よりも低くなる。

イ 経年比較
 <小学校>

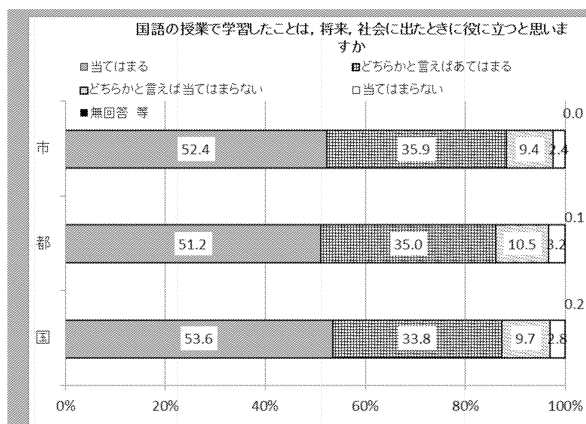
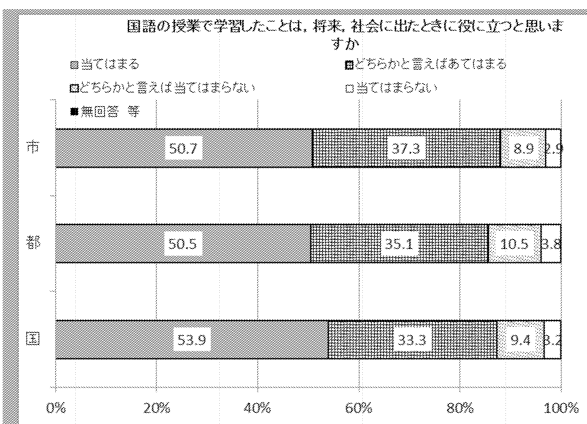
小

平成 25 年度

平成 26 年度

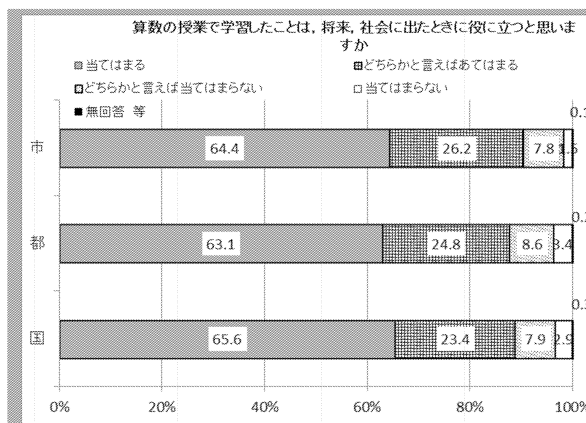
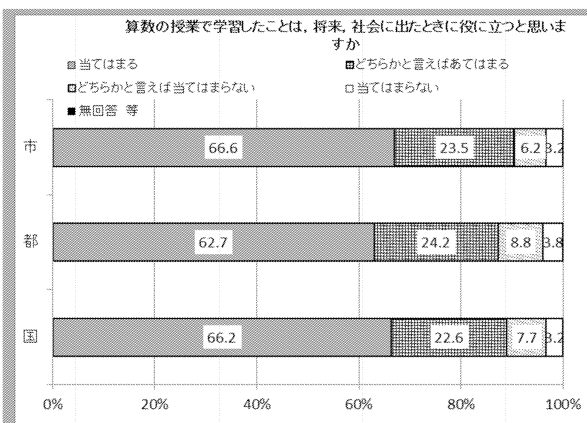
授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つか。

国語

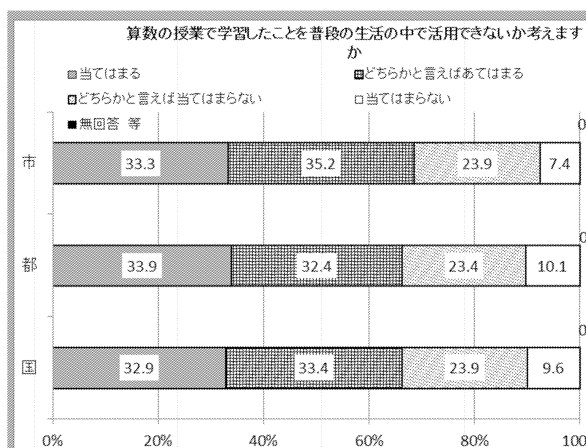
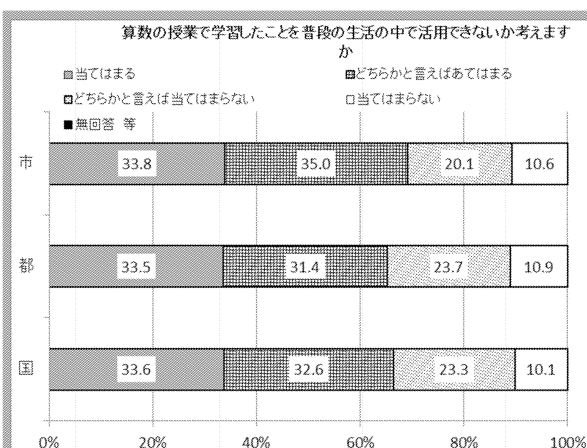


授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つか。

算数



授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか。



<分析>

- 25年度と26年度を比べて、国語、算数ともに「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つか」の市の割合は、ほとんど変わらない。
- 25年度と26年度の「普段の生活の中で活用できないか」の市の割合は、ほとんど変わらず、全国や東京都と比べて高い。

<中学校>

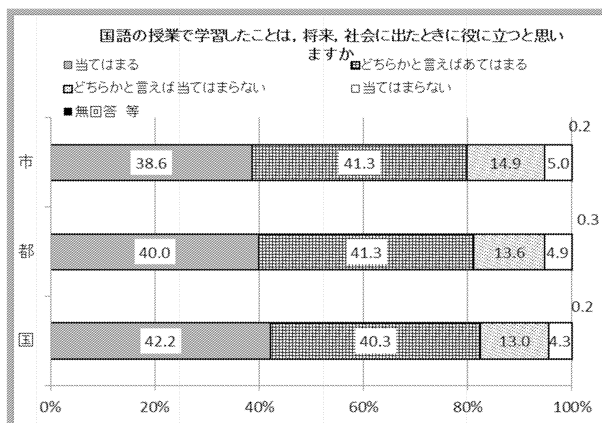
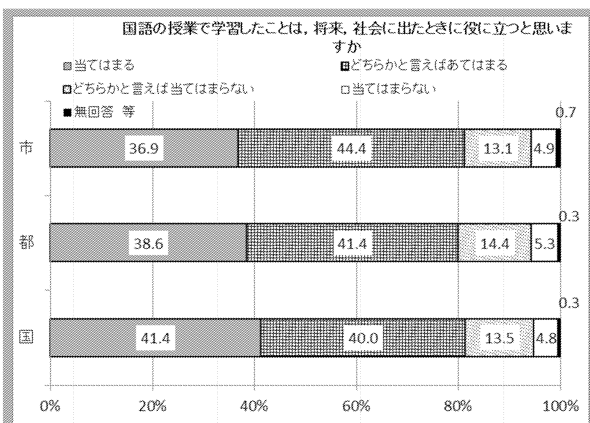
中

平成 25 年度

平成 26 年度

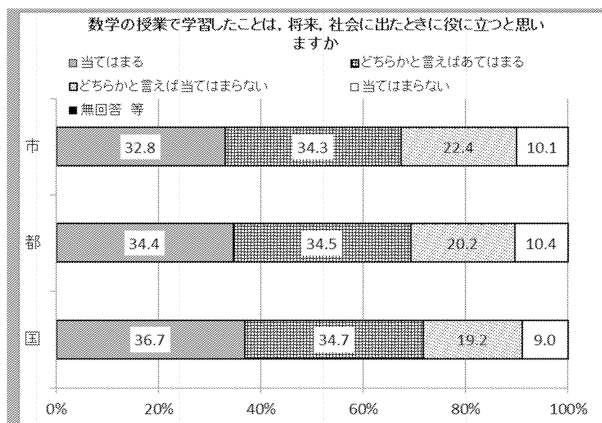
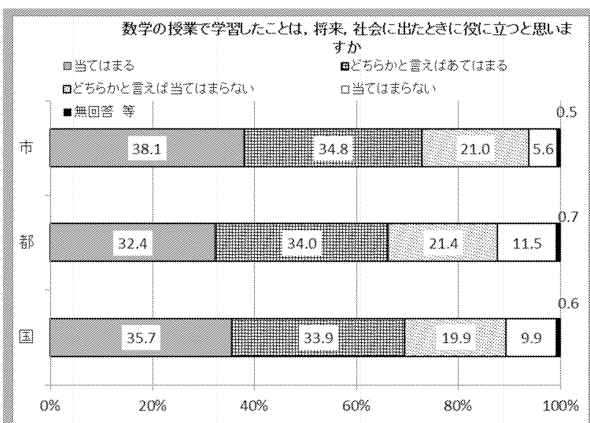
授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つか。

国語

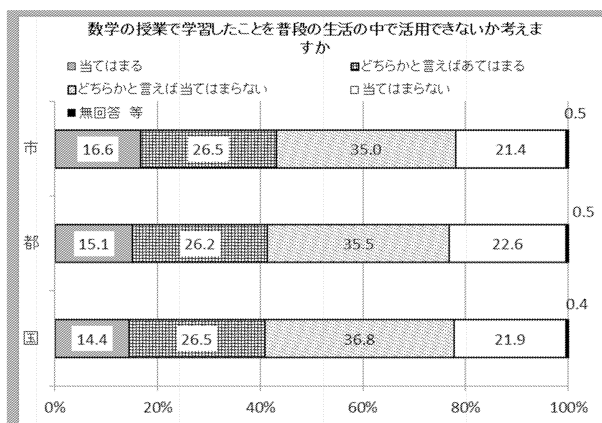
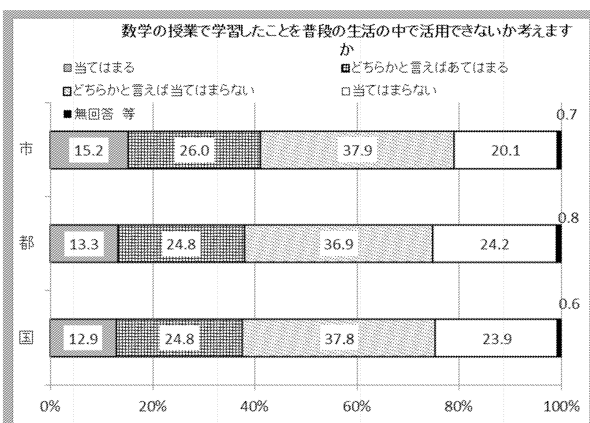


授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つか。

数学



授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか。



<分析>

- 25 年度と 26 年度を比べて、国語の「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つか」の市の割合は、ほとんど変わらない。
- 25 年度と 26 年度を比べて、数学の「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つか」の市の割合は、26 年度の方が若干低い。
- 25 年度と 26 年度を比べて、数学の「授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」の市の割合は、ほとんど変わらない。その割合は、全国及び東京都よりも高い傾向にある。

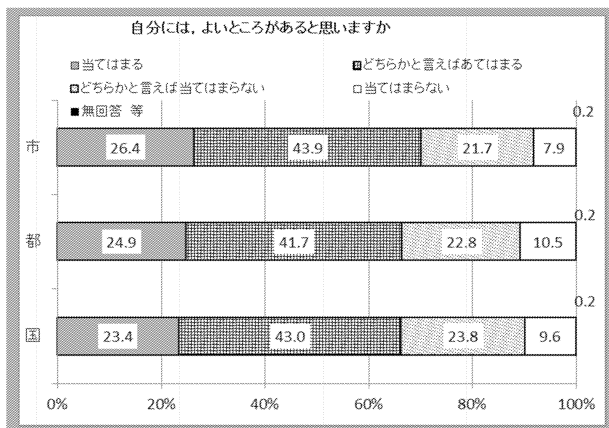
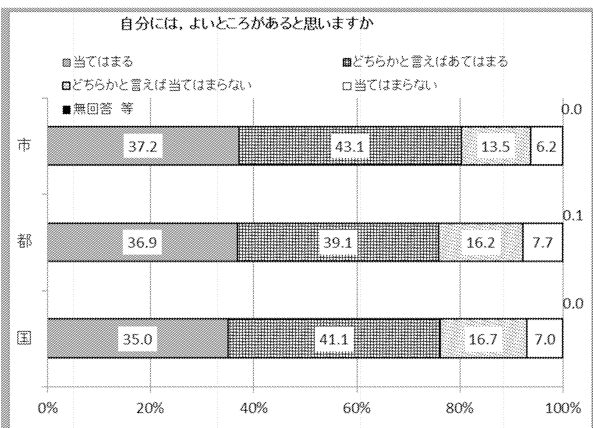
②自己肯定感、夢や希望
ア 小・中学校の比較

小学校

中学校

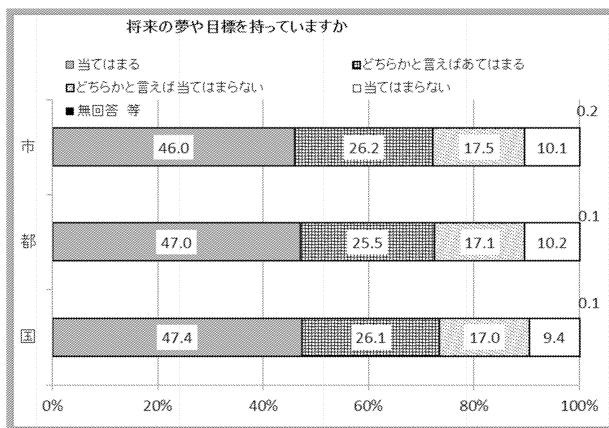
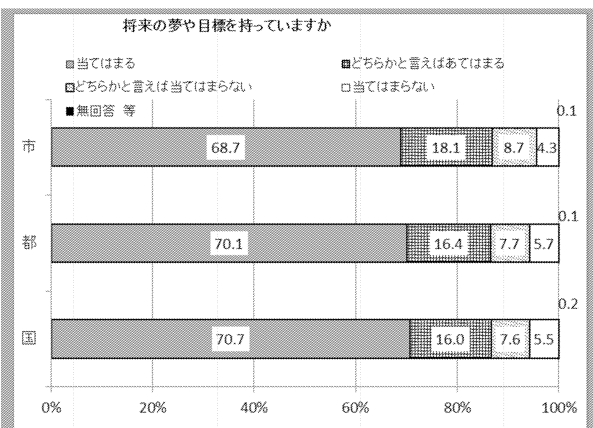
自分にはよいところがあるか。

自己肯定感



将来の夢や希望をもっているか。

夢や希望



<分析>

- 中学校になると、自分のよいところを「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と思う割合が少なくなる。
- 中学校になると、夢や希望をもつについて「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答える生徒の割合が小学校(約85%)から約70%と少なくなる。